聖書が証す

ムハンマド

(サッラッラーフ　アライヒ　ワ　サッラム,彼に平安がありますように)

WHAT THE BIBLE SAYS ABOUT MUHUMMED (PEACE BE UPON HIM)

アフマド　ディーダト　著

Ahmed Deedat

桐山　優香　訳

Yuka Kiriyama

○ 聖書の日本語訳は日本聖書協会刊行の口語訳聖書による

○ 聖クルアーン日本語訳は日本ムスリム協会『日亜対訳· 注解 聖クルアーン』による

第一章　はじまり

> ***言ってやるがいい。「あなたがたは考えてみたのか、もし(クルアーンが)アッラーの御許(みもと)からであり、それをあなたがたは拒否し、しかも、イスラエルの子孫の一人がそれ(ムーサーの律法)と、同じものであると立証し、…***
> [聖クルアーン / 46.砂丘章 10 節]

今晩のテーマ*「聖書が証すムハンマド(サッラッラーフ　アライヒ　ワ　サッラム,彼に平安がありますように)[1]」はムスリムが話すにしては意外であると思われるかもしれません。いったいどうして一ムスリムがユダヤ、キリスト啓典

[1] <訳注>ムスリムが預言者ムハンマドの名に言及する際に続ける文句。

における預言について詳述することになるのでしょうか。

若かった頃、30 年くらい前のことです。ダーバン[2] のシアターロイヤルで開かれていた宗教講座に出席していたことがありました。ヒートン師という神学者によるものです。

*これは 1970 年代初頭に著者によって行われた講義録である。

ローマ法王かキッシンジャーか？

ヒートン師は聖書の預言について解説し、ソビエト連邦の興りと終末の日のことが預言されていると述べました。聖書にはまたローマ法王についての預言もあると言い、新約聖書の最後の書に出てくる「**獣とその数字 666**」[3] は、「地上におけるキリストの代理人**ローマ法王**のことである」と出席者たちに力説していました。ここで私たちムスリムがローマカトリックとプロテスタントのこの論争に立ち入ろうというのではありません。が、ついでながら最近のキリスト教の解釈は聖書の「**獣とその数字** 666」はヘンリー・ キッシンジャー博士のことであるとして、キリスト教学者たちはこれを証明しようと努力しています。[4]

---

[2] <訳注>南アフリカ共和国最大の海港都市。クワズール・ ナタール州にある。

[3] <訳注>新約聖書ヨハネの黙示録第１３章参照

[4] <原注>キリスト教の聖書解釈学者は英語のアルファベットに 6 の倍数をあて(A=6, B=12, C=18, D=24....というように)、合計すると 666 になる単語をみる。6 を掛けるのは、聖書に出てくる獣の数字が「666」であるため。キッシンジャー博士の名前(Kissinger) でお試しあれ。

ヒートン師の講義を聞くうちに、私は、もし聖書がそんなにも多くの事柄を預言していたなら、人類に大きな貢献をした預言者ムハンマド(サッラッラーフ アライヒ ワ サッラム ,彼に平安がありますように)についても何か述べられているに違いない、と思うようになりました。

青年だった私はその答えを探し始めました。次から次へと聖職者たちに会い、講義に出席し、聖書に出てくる預言に関するものなら手当たり次第にあらゆるものを読みました。今夜、ここでそのうちの一つ、オランダ改革派教会の牧師との面会のことをお話したいと思います。

ラッキーナンバー13

私は預言者ムハンマドの生誕記念の催しで講演をするためにトランスヴァール[5] へ招かれました。南アフリカ共和国のその地方ではアフリカーンス語が広く使われていて、私の国の出身者[6] さえもアフリカーンス語を話しているくらいです。そこで、土地の人々に近づくために私もその言語をいくらかかじったほうがいいのではないかと思い、少し勉強しました。それから私は電話帳を開きアフリカーンス語を使っている教会に電話をかけ始めました。対話の機会を持ちたいという意向を牧師たちに伝えましたが、もっともらしい弁明をもってことごとく断られてしまいました。その

---

[5] <原注>南アフリカ共和国にある町

[6] <訳注>著者は 1918 年インドに生まれ 1927 年に南アフリカに移住した。

なかで「13」が私のラッキーナンバーとなったのです[7]。13 番目にかけた電話で嬉しいことにヒーデン師という牧師が、私がトランスヴァールに向かう土曜の午後に牧師宅で会ってくれることになりました。

ヒーデン師は玄関先に出てきて私を温かく歓迎して下さいました。牧師はフリーステイト州[8] 出身の義理のお父様(70 歳)も私たちの対話に交えたいとおっしゃりましたので、私は承諾しました。そこで私たち 3 人は牧師の書斎に腰を下ろしました。

どうして何も？

まず私から質問です。
「ムハンマドについて聖書には何と書かれていますか。」
「何も書かれていません。」牧師は間髪入れずに答えました。
「どうしてでしょうか。キリスト教徒の解釈では、聖書はソビエト連邦の興りや、終わりの日のこと、ローマカトリック教会の法王のことについてまでたくさんのことを言っているではありませんか。」
「はい。でもムハンマドのことは何も書かれていません。」とのお返事です。私は再び聞きました。
「どうして何もないのですか。ムハンマドは確かに、多数の信徒からなる世界的共同体の出現を招いたほどの人間で、その信徒たちはムハンマドの影響で信じているのですよ—

[7] <訳注>13 が不吉であるというイエスにまつわる俗説にかけての話と思われる。
[8] <訳注>南アフリカ共和国の九つある州のうちの一つ

(1) イエスの奇跡的誕生

(2) イエスはメシア,救世主[9] である

(3) イエスは神のお許しによって死者を生き返らせ、生まれつき目の見えない人や癩患者をいやした

ということを。

この本(聖書)は、イエスとその母マリヤ(アライヒム サラーム,彼らの上に平安がありますように)についてとても好意的に言及していた、この偉大な指導者について何かしら触れているはずです。」

フリーステイト州出の老人は私に言いました、
「お若い方よ*、私は聖書を 50 年間も読み続けていますから、その人について触れられているところがあったなら気づいていると思いますよ。」
*私はずっと若く、その当時はひげもそっていた。

名前がなくとも

[9] <原注>メシア,Messiahという言葉はアラビア語及びヘブライ語の「こする」「マッサージする」「塗る」という意味であるmasahaに由来する<訳注：マッサージ,massageの語源はアラビア語マッサ,massa「手で触れる」+age「行為」>。宗教上の意味は「聖別された(油を塗った)者」で、司祭や国王はその任務に身を捧げるにあたり塗油によって聖別された。「キリスト,Christ」と訳されている「メシア,Messiah」には「神」の意味はない。聖書(イザヤ書 45 章 1 節)では異邦人クロスでさえキリスト,Christと呼ばれている。

そこで別の質問にします。
「あなた方によると旧約聖書にはイエスの訪れに関する預言が何百といわずあったのですね。」
「何百ではなく何千も」と牧師は言葉を挟みました。
「イエス・キリストの到来に関する預言が旧約聖書に何千あるにせよ、細かく数えてその無数のものについて議論するつもりではないのです。イスラーム世界では聖書の預言がなくともイエスを受け入れているのですから。私たちムスリムは、ムハンマドによって**事実**イエスを認めています。キリスト教徒がムスリムを納得させようとして聖書を使って論証しなくとも、今日世界で 9 億人以上[10] の人がムハンマドに従うことから、神の偉大なる使徒**イエス・キリスト**を愛し、尊敬し、敬慕しています。
　とにかく、何千という預言の中から、イエスが名ざしで言及されている箇所を一つでも挙げられますか。『キリスト』と訳されている『メシア,救世主』という言葉は名前ではなくて敬称ですね。
メシア,救世主の名は**イエス**であり、母の名は**マリヤ**、父と思われるのは**大工のヨセフ**、**ヘデロ王**の治世に誕生するであろう、などといったことが述べられている預言が一つでもありますか。ありません! そのような詳細はありません! それならば、それら千もの預言がイエスを指していると、どのように結論付けているのですか。」

---

10 <原注>この本の初稿は 1976 年

預言とは？

牧師のお返事はこうです。
「預言というのは、未来に起こる事柄を生き生きと描写したものなのです。その事が実際に起こって過ぎる時になってみて、私たちは過去に預言されたそれらの事が成就するのを鮮やかに目にするのです。」
「実際には、演繹し、論理的に判断し、いろいろと総合して考え合わせる、ということですね。」
「そうです。」との返答でした。
「もしそれが、千もの預言が正真正銘イエスに関するものであると判断する方法であるなら、同じやり方をムハンマドにも用いてみませんか[11]」
私が提案すると、牧師は、それは公平で問題を解くのに理にかなっているといって同意してくれました。

私は申命記 18 章 18 節 (聖書の 5 つ目の書) を開いてくれるよう頼みました。牧師はその通りにしました。私はその節をアフリカーンス語で暗誦してみせました。このために、この南アフリカの支配人種の言語を少しでも学んでおきたかったのでした。

'N PROFEET SAL EK VIR HULLE VERWEK UIT DIE

---

11 <原注>ムハンマドの名は雅歌 5:16 中に言及がある。そこで使われているヘブライ語はMahammudimである。終わりの文字IMは敬意、尊厳、偉大さの複数形である。 ”im” を取った名前はMahammudとなり、欽定訳聖書で ”altogether lovely” <訳注: 日本語では「ことごとく麗しい」>、また「讃えられた者」—「称賛に値する者」– アラビア語ですなわちムハンマド—と訳されている。

MIDDE VAN HULLE BROERS, SOOS JY IS, EN EK SAL MY WOORDE IN SY MOND LE, EN HY SY SAL AAN HULLE SE ALLE WAT EK HOM BEVEEL. Deut.18: 18.

わたしは彼らの同胞のうちから、おまえのようなひとりの預言者を彼らのために起して、わたしの言葉をその口に授けよう。彼はわたしが命じることを、ことごとく彼らに告げるであろう。
[聖書 / 申命記 18 章 18 節]

モーセのような預言者

アフリカーンス語で読んだ後、あやふやな発音を詫びましたが、牧師はうまくできていたと言ってくれました。
「この預言は誰に関するものですか。」
「**イエスです!** 」一瞬の躊躇もなしに返ってきました。
「**どうしてイエス**ですか。**彼の名前がここにあるわけではない**のに。」
牧師は説明しました。
「預言は未来に起こる事を生き生きと描写したものであると説明しましたね。この文中での表現でイエスのことを言っているのだと分かるのです。この預言の中で一番重要な言葉は *SOOS JY IS* ***おまえのような*** です。ここで語り掛けられているのはモーセなので、これはつまり『モーセのような』ということになります。イエスはモーセのようです。」
「どんなところが、イエスはモーセのようなのですか。」との質問への答えはこうです。

「第一に、モーセは**ユダヤ**人、イエスも**ユダヤ**人でした。第二に、モーセは**預言者**、イエスも**預言者**です。だからイエスはモーセのようであり、それが正に神がモーセに預言したこと *SOOS JY IS* ***おまえのような*** です。」
「モーセとイエスの間に何か他に類似点は考えられますか。」と聞くと、牧師は他には思い当たらないと答えましたので、私は言いました。
「もしもその二つだけが、申命記 18 章 18 節の預言に相当する人を見つける基準なら、その場合、この基準は聖書に出てくる モーセより後の人物にも当てはまります– – ソロモン、イザヤ、エゼキエル、ダニエル、ホセア、ヨエル、マラキ、バプテスマのヨハネ、等です。なぜなら彼らは**みな**『ユダヤ人』で『預言者』です。どうしてこの預言をこれら他の預言者に当てはめずにイエスだけに当てはめるのですか。他の預言者にとって不当な扱いではありませんか。」
牧師は何も言いませんでした。
「どうでしょう、イエスは少しもモーセに似ていないと私は考えているのです。これから述べることで間違いがありましたらどうかご指摘ください。」

三つの不一致

そう言って、私は理由を述べました。
「**第一**に、キリスト教徒によれば、『イエスは神である』。でも、モーセは神ではありません。そうですね。」
牧師は「はい。」と言いました。

「従って、イエスはモーセのようではありません。」

「二番目に、キリスト教徒によると、『イエスはこの世界の罪のために亡くなった』けれど、モーセはこの世の罪のために亡くなったのではありません。**そうですね。」**
牧師は再び「はい。」と言いました。
「従って、イエスはモーセのようではありません。」

「三番目に、キリスト教徒によると、『イエスは 3 日間黄泉の国へ行った』けれどモーセはそこへ行く必要はありませんでした。**そうですね。」**
彼はおとなしく答えました、「はい。」
「従って、イエスはモーセのようではありません。」

私は続けました。
「でも、牧師様、これらのことは物質的な形のある事実ではありません。小さな者ならつまずいてしまいかねないような信念上の要素といえます。そこで、ごく簡単でもっと易しい、小さな者にも難なくついていけるような話をしませんか。」
牧師はその提案に満足そうでした。

第二章 「モーセのようである」8 つの要旨

父と母

(1) 「モーセには父と母がいました。ムハンマドにも父と母がいました。しかしイエスには母しかおらず、人間の父はいません。そうですね。」
牧師は「はい。」と言いました。そこで私はアフリカーンス語を言いました。「DAAROM IS JESUS NIE SOOS MOSES NIE, MAAR MUHUMMED IS SOOS MOSES!」
「従って、イエスはモーセのようではありません。ムハンマドはモーセのようです。」という意味です(これまでで、読者は、私がアフリカーンス語をどのような用途で使っていたかお気づきでしょう。これからの話の中ではアフリカーンス語は省きます)。

奇跡的な誕生

(2) 「モーセもムハンマドも普通の自然な過程で誕生しました。すなわち、男女の肉体的な結びつきによるものです。しかしイエスは特別な奇跡によって創造されました。マタイによる福音書 1 章 18 節に述べられています。

（大工のヨセフとマリヤが）***まだ一緒にならない前に、聖霊によって身重になった。***

聖なる息子の誕生についての良い知らせが告げられたときマリヤが次のように言ったと、ルカは伝えています。

「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。…」
[聖書 / ルカによる福音書 1 章 34-35 節]

聖クルアーンにもイエス誕生の奇跡について、より高潔で崇高な言葉で述べられています。彼女の論理的な問いに対しての天使の返答はどうでしょうか。

かの女は言った。「主よ、誰もわたしに触れたことはありません。どうしてわたしに子が出来ましょうか。」かれ(天使)は言った。「このように、アッラーは御望みのものを御創りになられる。かれが一事を決められ、『有れ。』と仰

せになれば即ち有るのである。」[12]
[聖クルアーン / 3 章 47 節]

神にとっては人間にも動物にも種を植える必要はありません。神がそのことを思えばそれは存在となります。これがムスリムの、イエス誕生についての考え方です。

（この国で一番の大都市にある聖書協会の会長ダンカース師にイエス誕生に関するこのクルアーンと聖書の文句を比較してみせ、「あなたの娘さんに聞かせるとしたら、**クルアーン**と**聖書**のどちらの方が好ましいですか。」と尋ねると、彼は頭を垂れ答えました、「クルアーンの方です。」）

最後にまとめて、牧師にこう言いました。
「モーセとムハンマドの自然的な誕生に対してイエスは奇跡的に誕生したというのは本当ですか。」
彼は誇らしく言いました、「そうですとも。」
「従って、イエスはモーセのようではありません。ムハンマドはモーセのようです。神は申命記 18 章 18 節でモーセに***おまえのような***（モーセのような）と言っており、**ムハンマドがモーセのようです。」**

---

[12] <原注>聖クルアーン 3:42 及び 19:16 の、イエス誕生について述べられている箇所を解説と共に参照。イスラームにおいてイエスとイエスの母親がどんなに高い地位を占めているかを身近にいるキリスト教徒の方々に伝えること。
（*天使たちがこう言った時を思い起せ。「マルヤムよ、誠にアッラーはあなたを選んであなたを清め、万有の女人を越えて御選びになられた。」(3:42)*
またこの啓典の中で、マルヤム（の物語）を述べよ。かの女が家族から離れて東の場に引き籠った時、・・・(19:16)）

婚姻関係

(3)　「モーセとムハンマドは結婚しており、子どもがいましたが、イエスは生涯独身でした。そうですか。」
彼は答えました、「はい。」
「従って、イエスはモーセのようではありません。ムハンマドはモーセのようです。」

追われたイエス

(4)　「モーセとムハンマドは存命中に同郷の人々に預言者として受け入れられました。ユダヤ人がモーセを終生悩ませ続け、荒野で不平を洩らしていたことは疑いがありませんが、国として、全体として、モーセは神から遣わされた使徒であると認められていました。

アラブ人も、ムハンマドの生活を耐え難いものにしました。ムハンマドはたいへん苦しめられ、メッカで 13 年間説教した後、その生まれ故郷を離れて移住しなければならなくなりました。しかし、逝去するまでにはそのアラブ人国家は全体として彼をアッラーの使徒であると認めました。

しかし聖書によると—

彼（イエス）は自分のところにきたのに、自分の民は彼を

受けいれなかった。
[聖書 / ヨハネによる福音書 1 章 11 節]

そして、二千年たった今日でさえ、彼の民—ユダヤ人は全体として彼を拒否しています。その通りですか。」
牧師は答えました、「はい。」
「従って、イエスはモーセのようではありません。ムハンマドはモーセのようです。」

来世の王国

(5)　モーセとムハンマドは預言者であると同時に王でもありました。ここで私のいう預言者というのは、人間を導くための神の啓示を受ける人のことで、彼はこの導きを神から受けた後、加えたり削ったりせずにそのまま、神の創造物へ伝えます。王というのは、その人民に対し生殺与奪の権を持っている人のことです。その人が王冠を被っているか否か、彼が王または支配者として宣言したか否かは重要でありません。彼が死刑を課する特権を持っているのであれば、**その人は王です。**　モーセはそのような権限を持っていました。安息日に薪を拾い集めるところを見られたイスラエル人のことを思い出してください。モーセは彼を石打ちによる死刑に処しましたね（民数記 15 章 36 節）。　罪を犯したユダヤ人がモーセの命令で死刑となった例は聖書の中に他にも見られます。ムハンマドも、人民に対し生死の権限を持っていました。

一方、聖書の中には、**預言の力のみ**を与えられた人物の例があります。命令を下す立場にはなかった預言者たちです。神からもたらされるメッセージを頑なに拒む人間に向かい合ったとき、これらの高徳な人々はどうすることもできませんでした。ロト、ヨナ、ダニエル、エズラ、バプテスマのヨハネたちです。彼らはメッセージをもたらすことはできましたが、法を施行することはできませんでした。尊い預言者イエスもあいにくこのカテゴリーに属しました。

キリスト教の福音書はこのことを明白に証言しています。反政府行動を犯しているとの罪によりローマの総督ポンテオ·ピラトの前に引き出されたとき、イエスはそのような濡れ衣に対し、ピラトに無実を示すのに的確な弁明をしました。

> ***イエスは答えられた、「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない」。***
> [聖書 / ヨハネによる福音書 18 章 36 節]

この言葉でピラト(多神教徒)は『イエスの知能はもしかすると正常ではないのかもしれないけれど、私の統治に対抗する危険人物ではない』と納得しました。イエスは**神聖な王国**のことだけを主張しました。言い換えればイエスが主張したのは預言者であることだけです。その通りですか。」

牧師は答えました、「はい。」

「従って、イエスはモーセのようではありません。ムハンマドはモーセのようです。」

新しい法は携えず

(6) モーセとムハンマドは人々に新しい法と規律をもたらしました。モーセはイスラエル人に十戒だけでなく包括的な儀式の法ももたらし、人々を導きました。ムハンマドは蛮行と無知にどっぷりと染まっていた民族の間に現れました。そこでは、義母との結婚、女児誕生の際には生き埋めにすること、酒に酔うこと、不義を犯すこと、偶像崇拝、賭け事などは日常茶飯事でした。ギボン[13] はイスラーム以前のアラブ民族について『**ローマ帝国衰亡史**』の中で次のように書いています。

《このほとんど社会の名にも価しない原始的で悲惨な状態では、法も技術もいや》思慮分別も《言語も》持ち合わせぬ人類はほとんど他の動物種と異なるところはない。[14]

その頃の人と動物を区別するものはほとんどありませんでした。彼らは人間の形をした動物でした。

ムハンマドは彼らをこの卑しい野蛮な状態から、トーマス· カーライル[15] の言葉を借りれば「**精神的光明と学識の**

---

[13] <訳注>1737-94 英国の歴史家。

[14] <訳注>《 》内は、本文にはないが原書にある部分。中野好之訳、筑摩書房より。

[15] <訳注>1795-1881 英国スコットランドの批評家· 歴史家。牧師を志し大学で学ん

啓蒙家へと」向上させました。**「アラブ国家にとってそれは暗黒から光の中への誕生であった。アラビアはそれによって初めて生を受けたのだ。世界の創造以来、よそから目を向けられることなく砂漠をあてどなくさまよっていた貧しい羊飼いの民のもとへ・・(中略)・・。見よ、辺境の人々が世界の表舞台に踊り出た。小さき民が世界に力を持つに至った。一世紀の内にアラビアは西にグラナダ、東はデリーまで広がった。勇敢さと雄大さ、そして英知の光に包まれ、アラビアは世界の広域にわたりその光を及ぼす。」**[16]

ムハンマドは人々にかつてなかった法と秩序を授けたというのは紛れもない事実です。

イエスに関しては、ユダヤ人に「私たちの宗教を歪める意図のあるペテン師ではないか」と疑われたとき、新しい宗教を唱えるためにやって来たのではなく、**新しい法も新しい規律もない**ことを分からせようと苦心しました。イエス自身の言葉を引用しましょう。

わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思ってはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。よく言っておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。

だ。

[16] <訳注> 6つのカテゴリーの英雄について述べた講演集『英雄と英雄崇拝』から「預言者としての英雄 イスラームのモハメット」より。

[聖書 / マタイによる福音書 5 章 17-18 節]

換言すれば、イエスは新しい法や規律を携えて現れたのでなく、古い法を成就するためだけに来たということです。これがユダヤ人にわかってもらおうとして言ったことです—ユダヤ人を欺いて新しい宗教を押し付けようという考えで本心とは違うことを言ったのでない限りは—

そんなことがあるわけありません！　この神の使徒は神の宗教を堕落させるそのような間違った方法に訴えることは決してありません。それどころか彼自身きちんと法を実行しました。モーセの戒律に従い、安息日を尊重しました。一人のユダヤ人もイエスを指して**「なぜ断食しないか。」「パンをちぎる前にどうして手を洗わないか。」**と言ったことはありませんでした。ユダヤ人たちはいつもそうやってイエスの弟子たちから罰金を徴収していましたが、イエスにはそんなふうにつけ込む非は一度も見つけることはできませんでした。それは、彼が誠実なユダヤ人として以前に遣わされた預言者たちがもたらした法を遵守していたためです。

要約するとイエスは、新しい宗教を創設したのでなく、モーセやムハンマドがしたように新しい法を携えてきたのではありませんでした。その通りですか。」

牧師は答えました、「はい」。

「従って、イエスはモーセのようではありません。ムハンマドはモーセのようです。」

死の訪れ

(7)　モーセもムハンマドも自然な死を迎えました。しかし、キリスト教によるとイエスは十字架の上で、乱暴なやり方で殺されました。そうですか。」
牧師は答えました、「はい」。
私は断言しました、「**従って、イエスはモーセのようではありません。ムハンマドはモーセのようです。**」

天上に

(7)　モーセもムハンマドも地上に埋葬されました。しかしキリスト教によればイエスは天国で休まれています。そうですか。」　牧師は答えました、「はい」。
私は言いました「**従って、イエスはモーセのようではありません。ムハンマドはモーセのようです**」。

第三章　より多くの証拠

第一子イシマエル

牧師はあらゆる点で力なく同意していましたが､私は言いました、「牧師様、これまで話してきたのは例の預言のうちたった一部分についての立証にすぎません—*おまえのような–* モーセのような—という句についてです。預言は次のようにその一句の他にももっと多くのものを含んでいます。

わたしは彼らの同胞[17]のうちから、おまえのようなひとりの預言者を彼らのために起して、…

「彼らの同胞のうちから」という言葉に着目してください。
モーセと彼の民ユダヤ民族はここで一つの人種的存在として言及されており、彼らの同胞(兄弟)は疑いなくアラブ民族です。聖書の中でアブラハムは「神の友」と書かれていますね。アブラハムには二人の妻、サラとハガルがいました。ハガルは男の子を産みました。アブラハムにとって最初の子です。

アブラム [18] はハガルが産んだ子の名をイシマエルと名づけた。[聖書 / 創世記 16 章 15 節]

アブラハムは…その子イシマエルと…　[創世記 17 章 23 節]

---

[17] <訳注>「同胞」と訳されている語は、英語ではbrethren　である。brethrenは、「同胞､兄弟の複数形」の意味で､本書 21 ページに引用のある創世記 16:12 及び 25:18 では英語のbrethrenに相当する語は「兄弟」という日本語に訳されている。

[18]<原注> 聖書によればアブラハムの名前は、神によって変えられる前はアブラムであった。

その子イシマエルが前の皮に割礼を受けた時は十三歳であった [創世記 17 章 25 節]

13 歳のときまでイシマエルはアブラハムにとって唯一の息子であり唯一の子孫でした。それは神とアブラハムの間に契約が結ばれた時のことです。神はアブラハムにサラを通じてもう一人の息子をお授けになり、イサクと名づけられました。イサクは兄イシマエルよりだいぶ年下であったわけです。

アラブ民族とユダヤ民族

イシマエルとイサクの父は同じ、アブラハムですから、彼らは兄弟です。**イシマエルの子とイサクの子もそれと同じ関係、同胞といえます**。イサクの子孫はユダヤ、イシマエルの子孫はアラブです—彼らは互いに**同胞（兄弟）**です。聖書は言っています。

「…彼（イシマエル）はすべての兄弟に敵して住むでしょう」
[聖書 / 創世記 16 章 12 節]

イシマエルはすべての兄弟の東に住んだ。
[聖書 / 創世記 25 章 18 節]

イサクの子孫はイシマエルの子孫の兄弟です。その関係から見るとムハンマドはイスラエル人の兄弟からの出身です。アブラハムの息子、イシマエルの子孫だからです。これは正に預言どおりのことです—*彼らの同胞のうちから*

この預言が言っていることは紛れもなく、モーセのようであるという,来る(きた)預言者は**イスラエルの**子、ヘブライ人、ユダヤ人から現れるのでも、**イスラエル自身**から出るのでもなく、同胞（兄弟）から現れるのだということです。ムハンマドは結果として彼らにとって同胞（兄弟）にあたります。

授けられた言葉

預言はさらにこう言っています。…***わたしの言葉をその口に授けよう。…*** **「わたしの言葉をあなたの口に授けましょう」**といったら、どういう意味になるでしょうか。私がこの会見の始めに申命記 18 章 18 節のページを開けてくれるようにお願いしたとき、もし私がそれを読んでくださいとお願いし、牧師様がそうしていたとしたら、それは私があなたの口に私の言葉を授けたことになりますか。牧師は「いいえ」と答えました。私はまた続けました、「私が、あなたが知らない言語、たとえばアラビア語を教えるとして、これから口にすることを後に続いて読んだり繰り返したりしてみてください、とお願いするとします。たとえばこのような言葉を。

言え、「かれはアッラー、唯一なる御方であられる。

アッラーは、自存され、

御産みなさらないし、御産れになられたのではない、
かれに比べ得る、何ものもない。」

وَلَمْ يَكُن لَّهُۥ كُفُوًا أَحَدٌۢ ﴿٤﴾

[聖クルアーン / 112.純正章 1-4]

「このようにあなたが聞いたこともない外国語を口にすることが、私が言葉をあなたの口に授けている ということになりませんか。」 牧師は、たしかにそのことだ、とお返事されました。
同様の方法で、全能の神はムハンマドに啓示聖クルアーンを賜ったのだと私は言いました。

記録によるとムハンマド 40 歳、メッカの北およそ 4-5 キロのところにある洞窟にこもっていました[19]。ラマダーン月 27 日目の夜ことです。洞窟に現れた大天使ガブリエルが اقْرَأْ とムハンマドの

の母語で命令しました。「**読め！**」「**読誦せよ！**」という意味です。ムハンマドは恐れうろたえて (「**私は読めません**」) と返事しました。天使は再び命令し、ムハンマドは同じ返答をしました。三度目に天使は言葉を続けました。

اقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ ﴿١﴾

いまやムハンマドは、「読め！」というのは「**繰り返せ！**」「**復**

[19] <訳注>預言者召命の数年前からムハンマドはここで独り冥想する期間をもつようになっていた。

唱せよ！」という意味の要求であることを把握し、彼の口に授けられた通りに言葉を繰り返します。

اقْرَأْ بِاسْمِ رَبِّكَ الَّذِي خَلَقَ ﴿١﴾

読め、「創造なされる御方、あなたの主の御名において。

خَلَقَ الْإِنسَانَ مِنْ عَلَقٍ ﴿٢﴾

一凝血から、人間を創られた。」

اقْرَأْ وَرَبُّكَ الْأَكْرَمُ ﴿٣﴾

読め、「あなたの主は、最高の尊貴であられ、

الَّذِي عَلَّمَ بِالْقَلَمِ ﴿٤﴾

筆によって（書くことを）教えられた御方。

عَلَّمَ الْإِنسَانَ مَا لَمْ يَعْلَمْ ﴿٥﴾

人間に未知なることを教えられた御方である。」
[聖クルアーン / 96.凝血章 1-5 節]

これら 5 つの節がムハンマドに下った初めての啓示で、それが聖クルアーン 96 章の冒頭を成しています。

誠実な証人

天使の姿が見えなくなるとムハンマドは家へ逃げ帰りました。恐怖で全身汗ばみながら愛妻ハディージャに「私を包んでくれ」と頼みました。震えて横になっている間ハディージャはそばでじっと見守っていました。ムハンマドは落ち着きを取り戻すと、見たこと耳にしたことを話しました。ハディージャは彼の言うことを信じるといい、「アッラーはあなたにひどいことはなさいません」と言いました。これがペテン師の告白に聞こえますか。ペテン師が、「天使が天上からお告げを持って目の前に現れたので恐ろしくて、おびえて身体じゅう冷や汗をかきながら妻の元へ飛んで帰った。」と白状するでしょうか。どんな批評家であれ、そのような反応をしたとみなに告白した事は「正直で誠実な人間、真実の人」—アラビア語で即ち「**アル・アミーン**」[20]—であることの表れであると認めることでしょう。

それ以後、預言者としての人生の 23 年間、言葉が**彼の口に授けられ**、彼はそのままを声にして発していました。ムハンマドはそれらの言葉を記憶しました。そして、神聖な啓示（聖クルアーン）が少しずつ下されるにしたがって、その言葉は椰子の葉や動物の肩甲骨、忠実な信徒たちの記憶に記され、預言者が亡くなる前にそれは今日わたしたちが目にしている聖クルアーンの順序にまとめられました。その言葉（啓示）は実際に**彼の口に授けられ**ました。それは正に先ほどから私たちが論じている　…***わたしの言葉をその口に授けよう。*** [聖書 / 申命記 18 章 18 節]　という預言の通りの出来事です。

読み書きのできない預言者

[20] <訳注>啓示を受ける前からムハンマドはこう呼ばれていた。

後にジャバル・ン・ヌール—**光の山**と呼ばれることになるヒラーの洞窟でのムハンマドの体験と初めて啓示が下ったときの応答は、聖書の預言のもう一つの成就にほかなりません。
イザヤ書 29 章 12 節にこう書かれています。

またその書物をよむことのできない者にわたして、

（ ٱلنَّبِيَّ ٱلْأُمِّيَّ *文字を知らない使徒*　[聖クルアーン/ 7:158]）

「これを読んでください」と言えば、
（ローマカトリックのドゥエー聖書や改訂標準訳聖書にある「ください」という言葉は　ヘブライ語の方には書かれていない。[21]）

「読むことはできない」と彼は言う。
（「読むことはできない」は、ムハンマドが聖霊—**大天使ガブリエル**に　اقْرَأْ「読め！」と言われたときに二度繰り返した言葉の訳そのものです。）

ムハンマドが生存し布教していた西暦 6 世紀にはアラビア語の聖書[22] は一つもなかったことを述べておくべきでしょう。そのうえ、彼は全くの無学で読み書きは学んでいません。誰も彼に教えたことはありませんでした。彼は彼を創造された方に教えてもらったのです。

[21] <訳注>日本語の聖書にもこの通り「ください」がついている。なければ「読め」、とクルアーンと同じ文句になるということ。
[22] <原注>今日ではアラビア語の聖書だけでも 15 通りある。

<訳注 : 神が、ムハンマドをもの憑き、嘘つき呼ばわりしているメッカの人々に向かって言う- *「あなたがたの同僚は、迷っているのではなく、また間違っているのでもない。」[53:2]* これに以下の節が続く >

وَمَا يَنطِقُ عَنِ ٱلْهَوَىٰٓ ٣

また（自分の）望むことを言っているのでもない。

إِنْ هُوَ إِلَّا وَحْىٌ يُوحَىٰ ٤

それはかれに啓示された、御告げに外ならない。

عَلَّمَهُۥ شَدِيدُ ٱلْقُوَىٰ ٥

ならびない偉力の持主が、かれに教えたのは、

[53.星章 3-5]

人間に教わらずして、天啓を受けた彼の英知は学問のある者のそれをはるかに凌ぐものでした。

重大な警告

「どうでしょう。預言がどんなにかムハンマドにぴったり合致することかおわかりになりますね。ムハンマドに関しては、預言を拡大解釈して合わせようとしなくとも当てはまるのです。」

牧師は答えました。
「あなたの説明はみなうまくできているように思われますが、それは本当に重要なことではありません。それよりも、私たちキリスト教徒にとって重要なのは、イエス· キリストは『人間の姿を

した』神であり、罪の束縛から私たちを救って下さったということです。」

私は尋ねました、「重要ではないのですか」。神様はそうはお思いにならないからこそ、私たち人間のためにわざわざ警告を記録して下さったのではありませんか。神様はあなたのように軽薄にも神のお言葉を考慮に値しないとする人々がいることはご存知だったために、申命記 18 章 18 節に続く次の節にみられる恐ろしい警告をされたのでしょう。

彼がわたしの名によって、わたしの言葉を語るのに、もしこれに聞き従わない者があるならば、わたしはそれを罰するであろう。

（カトリックの聖書では終わりの言葉は「**わたしは報復者となるであろう**」となっています。– 「わたしは彼に報復するであろう」– わたしは報復するであろう！）

「これを聞いて恐れを感じませんか。**全能なる神が報復すると脅しているのです！** 私たちは人間に脅迫されるだけで震え上がるのに、あなたは神の警告が恐ろしくないですか。」

「驚くべき奇跡です。申命記 18 章 19 節のさらなる預言の成就をムハンマドに認めることができます。『***彼がわたしの名によって、わたしの言葉を語る***』というところに注目して下さい。ムハンマドは誰の名によって話しているでしょうか。」
私は聖クルアーンを開きました。114.人々章、最後の章です。私

بِسْمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحْمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

は牧師に章の頭にある文句を示しました。
意味は「***慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において***」です。
それから、113 章の始まり、
意味は「***慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において***」です。
そして、112、111、110 と章を遡っていきますが、聖クルアーン

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

の最後の方の章は短く、一ページに収まるくらいの長さなのでどのページの始まりにも同じ文句が見られます。

預言は何と言っていたでしょうか…
「***彼がわたしの名によって、わたしの言葉を語る***」
ムハンマドは誰の名によって語っていますか。
「***慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において***」。
預言はムハンマドにおいて文字通りそのままに満たされています。

聖クルアーンの、9 章を除くすべての章は

بِسۡمِ ٱللَّهِ ٱلرَّحۡمَٰنِ ٱلرَّحِيمِ

「***慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において***」との文句で始まっています。ムスリムはみな、何かの行為の際はこの聖なる文句を唱えてから取りかかります。しかし、キリスト教徒は「***父と子と聖霊の御名によって***」と唱えますね。

申命記 18 章に関して、その預言がイエスでなくムハンマドに該当するものだとする理由を 15 挙げました。

第四章　新約聖書も裏付ける

バプテスマのヨハネとイエスの矛盾

新約の時代になってもユダヤ人はなお「モーセのような人」という預言の成就を待っていました (ヨハネによる福音書 1 章 19-25 節参照)。イエスがユダヤ民族の,救世主(メシア)であると公言したとき、ユダヤ人たちは エリヤはどこかといった質問をし始めました。ユダヤ人は,救世主(メシア)の到来の前にエリヤが先に再来するはずであるという預言も共に信じていました。イエスはユダヤ人たちがそのように信じていることについて次のように言いました、

「確かに、エリヤがきて、万事を元どおりに改めるであろう。しかし、あなたがたに言っておく。エリヤはすでにきたのだ。しかし人々は彼を認めず、…」。そのとき、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと悟った。
[マタイによる福音書 17 章 11-13 節]

新約聖書によるとユダヤ人はどんな見せかけの,救世主(メシア)の言葉も受け入れるような人々ではありません。彼らが調べるときには真の,救世主(メシア)であることを確かめるために厳しく追及しました。そのことはヨハネの福音書の記述に覗えます。

さて、ユダヤ人たちが、エルサレムから祭司たちやレビ人たちをヨハネのもとにつかわして、「あなたはどなたですか」と問わせたが、その時ヨハネが立てたあかしは、こうであった。すなわち、彼は告白して否まず、「わたしはキリストではない」と告白した。

同時に二人の,救世主(メシア)がいることはありえないので、これは当然でした。イエスがキリストであるなら、ヨハネがキリストであるはずはありません。

そこで、彼らは問うた、「それでは、どなたなのですか、あなたはエリヤですか」。彼は「いや、そうではない」と言った。

ここでバプテスマのヨハネの答えはイエスの言葉と矛盾しています。イエスはヨハネが「エリヤ」であるといい、ヨハネはイエスが言ったその事を否定しています。(イエスかヨハネの) 二人のうちどちらか一方が、--神よゆるしたまえ！-- 確かに真実を言っていないことになります！　イエスは「バプテスマのヨハネはイスラエルの預言者の中で最も偉大である」と証言しました。

あなたがたによく言っておく。女の産んだ者の中で、バプテスマのヨハネより大きい人物は起らなかった。
[聖書 / マタイによる福音書 11 章 11 節][23]

---

[23] <訳注>この後、「*そして、もしあなたがたが受けいれることを望めば、この人こそは、きたるべきエリヤなのである。*」 [同 14 節]と続く。

私たちムスリムの中では、バプテスマのヨハネは**ヤヒヤー**（アライヒ　サラーム,彼に平安がありますように）として知られており、アッラーの真の預言者として尊敬されています。私たちの間で**イーサー**（アライヒ　サラーム,彼に平安がありますように）として知られている聖預言者イエスもまた全能者から遣わされた最も偉大な預言者の一人として尊ばれています。そんな私たちムスリムがどうして彼らのうちのどちらかにでも虚言の責任を負わせることができるでしょうか。イエスとヨハネのこの問題の解明はキリスト教徒に委ねます。多くの矛盾があって**「イエスの言った謎めいたこと」**としてもっともらしくごまかしているところがあるにせよ[24]、キリスト教徒にとって「神聖な書」に違いありません[25]。私たちムスリムは代表して遣わされてきたユダヤ人によって**バプテスマのヨハネ**に投げられた最後の問いにたいへん関心があります—

「では、あの預言者ですか」。彼は「いいえ」と答えた。
[聖書 / ヨハネによる福音書 1 章 21 節]

三つの質問

三つの異なった明瞭な質問が**バプテスマのヨハネ**になされ、それに対して彼が三度きっぱりと「**いいえ**」の返答をしたことに注目

[24]<原注> 1974 年 12 月 30 日の『ＴＩＭＥＳ』に「聖書はどのようにして真実となりうるか？」という記事があった。

[25] <訳注>イスラームの立場では、聖書には真実もあるが、執筆者による誤りか後年加筆、改ざんされた箇所があり得るとみなす。

してください。要約すると—

(1)　あなたはキリスト（キリスト,救世主）ですか。

(2)　あなたはエリヤですか。

(3)　あなたはあの預言者ですか。

しかしキリスト教界の学識者たちはどういうわけかここにある質問のうち二つだけに目を向けているようです。続く節、ユダヤ人の抗議を読んでみましょう。ユダヤ人は**バプテスマのヨハネ**を問いただしたとき、明確に三つの異なった預言のことが頭にあったということが一層明らかになります。

彼らはヨハネに問うて言った、「では、あなたが
（イ）***キリストでも***
（ロ）***エリヤでも***
（ハ）***またあの預言者でもない***
のなら、なぜバプテスマを授けるのですか」。
[聖書 / ヨハネによる福音書 1 章 25 節]

ユダヤ人は三つの異なった預言の成就を待っていました。一、キリスト（救世主）の訪れ、二、エリヤの訪れ、三、あの預言者の訪れ。

「あの預言者」

用語索引や参照の付いた聖書を見ると、ヨハネ 1 章 25 節にある

「あの預言者」の注釈に、「申命記 18 章 15 節、18 節の預言に関するものである」とあります。すると、「あの預言者」は、私たちが圧倒的な証拠に基づいて確認した通り、*おまえのような* —「モーセのような預言者」—ムハンマドであり、イエスではありません。

ムスリムはイエスが、メシア（救世主）—この言葉はキリストと訳されていますが—でないと言っているのではありません。私たちはキリスト教徒が「メシアの到来についての預言が旧約聖書に無数にある」と主張していることに異議を唱えているのではありません。私たちが言いたいのは、申命記 18 章 18 節はイエス・キリストに関するものではなく、聖なる預言者ムハンマドに関する明白な預言であるということです。

牧師は、とても興味深い議論で、そのうちこの論題について彼の教会にくる信徒たちにぜひ話をしてほしいと言って、礼儀を尽くして私に別れの挨拶をしてくれました。それから 15 年が経ちましたが私はその栄誉に預かれる日を待ち続けています。牧師は誠実にその申し出をしてくれたのだと思いますが、偏見はなかなか消えないものですし、敢えて信徒に問題提起しようという人もそう多くいるわけではありません。

真価を問う手段

キリストの子羊たちに提案します。主ご自身が、預言者であると主張する人に適用するようにと言われた真価を問う手段を用いてみてはいかがですか。

あなたがたは、その実によって彼らを見わけるであろう。茨からぶどうを、あざみからいちじくを集める者があろうか。そのように、すべて良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。...あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである。
[聖書 / マタイによる福音書　7 章 16-20 節]

この手段をムハンマドの教えにあてはめることを恐れないで下さい。神の最後の契約[26]—聖クルアーン—の中に、モーセとイエスの教えの真の完成、世界にほんとうに必要とされてきた平和と幸福をもたらすものを見出すことでしょう。

「ムハンマドのような人がもし現代において執政者の地位にいたとしたら、彼は世の中の抱える問題をうまく解決し、必要とされている平和と幸福を多くもたらしたことだろう。」（ジョージ・バーナード・ショー[27]の言葉）

一番偉大な人

1974 年 7 月 15 日付け週刊誌『TIME』に、「歴史上偉大なリーダーは誰か」というテーマで様々な歴史家、作家、軍事家、ビジネ

---

[26] <訳注>原文では、Old Testament「旧約」、New Testament「新約」に続くものとして‘ Last Testament’「終約」という語が用いられている。
[27] <訳注>1856-1950 アイルランド生まれの英国の劇作家・批評家。1925 年にノーベル文学賞を受けた。代表作に『人と超人』、ミュージカル『マイ・フェア・レディ』の原作『ピグマリオン』。

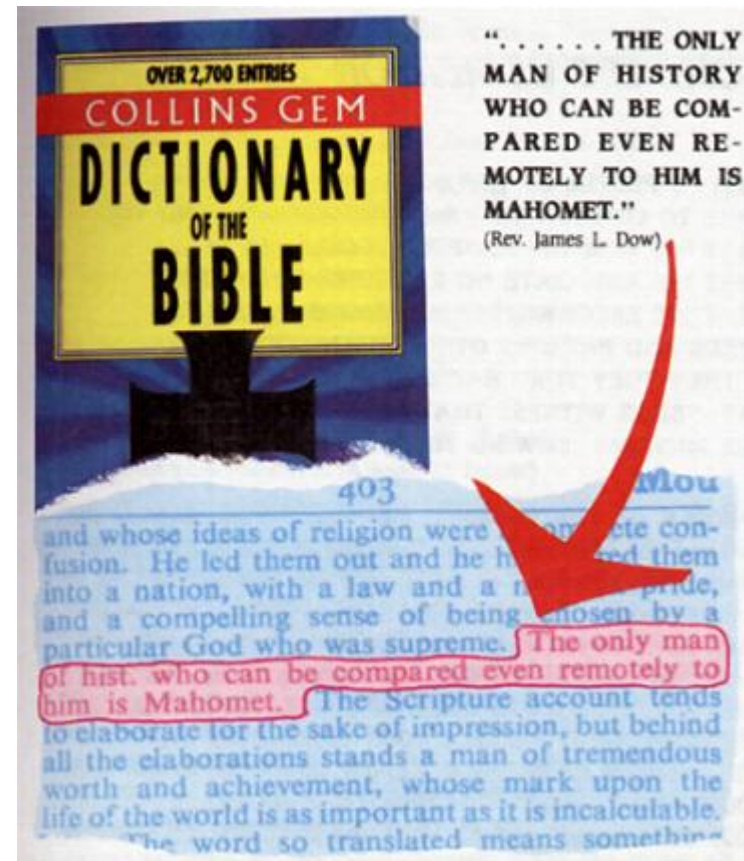
スマンや他の人たちによる意見の抜粋がありました。ヒトラーという人もいれば、ガンジー、仏陀、リンカーンなどを挙げる人もいましたが、アメリカの精神分析学者ジュールズ· マサーマンは何によって決めるか正しい判断の基準を次のように設けました。

「リーダーは次の三つのことを満たしていること
(1)被支配者である人民に健康で快適な生活を保障し、
(2)人々が相対的に安心できる社会組織を構築し、
(3)人々に生活のあらゆる面で導きとなる信条を与える」

上に挙げた三つの基準に従って彼は歴史を調べ検討しました– ヒトラー、パスツール、シーザー、モーセ、孔子、考えられる人物すべてを。そして最後に結論しています—
「パスツールやソークのような人物は第一番目にあげた意味でリーダーである。ガンジーや孔子のような人物は第二とおそらく第三の両方の意味でのリーダーであるし、他方、アレキサンダー、シーザー、ヒトラーなどもそうである。イエスと仏陀は三番目の分類のみに属する。歴史上最も偉大なリーダーはおそらくムハンマドである。彼は三つの働きをすべて成し遂げた。ムハンマドほどではないが、モーセも同様であった。」

そのシカゴ大学教授—彼は確かにユダヤ人ですが—によって定められた客観的な基準によるとイエスと仏陀には「人類の偉大なリーダー」としての像は見られませんが、不思議な偶然で、モーセとムハンマドは共に同じグループに入っています。これによって、先ほどからの議論がより強められます。イエスはモーセのようでなく、ムハンマドがモーセのようである。申命記 18 章 18 節の ***おまえのような*** – モーセのような。

コリンズ聖書辞典にあるキリスト教のジェイムズ L. ダウ師の記述は「イエスはモーセのようではなく、ムハンマドがモーセのようである」ことをさらに証明しています。「政治家として、立法者として、モーセはユダヤの人々の創設者である。彼はセム族(ユダヤ人)......歴史の中で間接的にでも彼と比べうる唯一の人はマホメットである。」と書かれています。

コリンズ聖書辞典

ここで、聖書の解説者である一人のキリスト教聖職者による言葉と彼の主キリストの言葉を引用します。

「真の預言者の究極の基準はその教えの道徳的質である。」(ダムロー教授)

「その実によってかれらを知る」(イエス・キリスト)

共通のことばの下に

言ってやるがいい。「啓典の民よ、わたしたちとあなたがたとの間の共通のことば(の下)に来なさい。わたしたちはアッラーにだけ仕え、何ものをもかれに列しない。またわたしたちはアッラーを差し置いて、外のものを主として崇ない。」それでもし、かれらが背き去るならば、言ってやるがいい。「わたしたちはムスリムであることを証言する。」

[聖クルアーン / 3.イムラーン家章 64 節]

「啓典の民」とは、聖クルアーンの中でユダヤ教徒とキリスト教徒に与えられている敬称です。ムスリムはここで、「啓典の民よ！」—知識ある人々よ！　天啓と聖典を受けた人々よ、「私たちは神以外のものを崇拝しない」という共通の基盤の上に共に集いましょう、と招くよう命令されています。神のみが崇拝に値するために、私たちは神だけを崇めるのです。

あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものは、父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼし、...

[出エジプト記 20 章 5 節]

と神が仰せられるからといって神だけを崇拝するのでなく、彼が私たちの主であり、私たちを養育されるお方、維持してくださるお方、発展させてくださるお方、あらゆる称賛、礼拝、帰依にふさわしいお方であるからです。

理論上ではユダヤ教徒もキリスト教徒もこのクルアーンの文章にある三つの提案すべてに同意してくれますが、実践となるとそうはいきません。真の神(アッラーフ スブハーナフ ワ タアーラー,完全にして至高なる神[28])の唯一性についての教義上の過ちのほかに、聖職者を神聖化する問題があります(ユダヤ教徒の間でもそうでした)。コーエン、ローマ法王、司祭、ブラフマンという単に人間にすぎない者がその学識や生活の純粋性はさておき、まるで優位にいるかのごとく主張しあたかもある特別な意味で人と神の間に立つことができるかのようにしています。イスラームはこのような聖職を認めません。

イスラームの信条はきわめて簡単にここに示されています。

言え、「わたしたちはアッラーを信じ、

わたしたちに啓示されたものを信じます。

またイブラーヒーム <アブラハム>、*イスマーイール* <イシマエ

[28] <訳注>ムスリムが「アッラー」と口にする際にはこのように言う。

ル>、イスハーク <イサク>、
ヤアコーブ <ヤコブ> と諸支部族に啓示されたもの、と
ムーサー <モーセ> とイーサー <イエス> に与えられたもの、
と主から預言者たちに下されたものを信じます。
かれらの間のどちらにも、差別をつけません。
かれにわたしたちは服従、帰依します。」
[2．雌牛章 136 節] [29]

ムスリムの立場は明らかです。ムスリムは自分たちだけに固有の宗教を持っていると主張しません。イスラームは異端宗派でも民族宗教でもありません。イスラームの見地からすればすべての宗教は結局は一つです。真実は一つであるからです。

かれ [30]があなたに定められる教えは、ヌーフ <ノア> に命じられたものと同じものである。われはそれをあなたに啓示し、またそれを、イブラーヒーム <アブラハム>、ムーサー <モーセ>、イーサー <イエス> に対しても（同様に）命じた。
[聖クルアーン / 42．42．相談章 13 節] [31]

過去に下されたすべての啓典によって教えられている真実です。あらゆる事物や現象の本質において神のご意志と意図を意識し、その意志と意図に喜んで服従することにたどりつきます。誰でも、それ以外の宗教を望む人は神のご意志と意図に沿っていないので本来の姿からはずれてしまいます。そのように故意に導きを放棄

[29] <訳注> ＜ ＞ 内は訳者による挿入。
[30] <訳注> 神がご自身のことを「かれ」と表されている。続く「われ」も神ご自身。
[31] <訳注> ＜ ＞ 内は訳者による挿入。

している間は、導かれることはありません。